

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：34311

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K17425

研究課題名(和文)視線の可視化による看護師と看護学生のがん患者に対するコミュニケーション技術の比較

研究課題名(英文) Comparison of Communication Techniques of Nurses and Nursing Students for Cancer Patients by Visualizing Gaze

研究代表者

田村 沙織 (Tamura, Saori)

同志社女子大学・看護学部・助手

研究者番号：50756210

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：5年以上の臨床経験がある看護師に対して、がん患者とのコミュニケーションをとる際の視線を視線計測機器を用いて計測した。そして、視線計測終了後、コミュニケーションの中で沈黙の時に感じることや尺度を用いてアンケート調査を実施した。その結果、対象者の各AOIの注視時間の割合の平均は、両目が30.5%と高く、次いで、鼻、口元であり注視時間のうち45%が顔を見ていたことが示された。また、「沈黙」の時に患者の発言を待つ時間ととらえている看護師が多く看護師のコミュニケーションスキル尺度の平均点は73.9点であった。先行研究において学生の平均点は54.9点であり、看護師のコミュニケーションスキルが高かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、入院在院日数が、縮化され効率的な情報収集を行わなければ、がん告知を受けた患者の思いに気づくことなく治療が進み、告知の受け入れ状況によっては、患者の抑うつ状態を生み出す結果となり、今後の治療に影響を及ぼす。本研究の結果は、看護学生のコミュニケーション能力の向上を目指す一助となるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The gaze when communicating with a cancer patient was measured using a gaze-measuring device for a nurse with more than 5 years of clinical experience. After the gaze measurement was completed, a questionnaire survey was conducted using feelings and scales during silence in communication. As a result, it was shown that the average ratio of gaze time of each subject's AOI was as high as 30.5% in both eyes, followed by the nose and mouth, and 45% of the gaze time was looking at the face. In addition, many nurses regard the time of "silence" as the time to wait for a patient's remark, and the average score of the nurse's communication skill scale was 73.9. In previous studies, the average score of students was 54.9, indicating that nurses had high communication skills.

研究分野：看護学

キーワード：コミュニケーション 視線 がん

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

コミュニケーションには、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションがあり、非言語的コミュニケーションには、人の表情、視線、姿勢がある。人は、人と人とのコミュニケーションにおいて自分の視線を動かして、意図や気分など情報を送っている。看護師は、患者が発する言葉に対して反応し、看護師の視線の動きに感情が伝わるのが考えられる。看護師の感情が視線に表現されてしまうことは、患者にも影響を与え、悪い印象を与えた場合患者の思いをくみ取るコミュニケーションをとることは困難である。近年インターネットを介した一方通行なコミュニケーションによる交流が、若年層で急増している。こうした交流は、直接対話することがなく、非言語的コミュニケーションを意識することがない。そのため、コミュニケーション能力の低下が危惧される。そして、このような若者の現状は、看護学生にも反映されている。眼球の動きを測定することで、人が何を見たのか、どのような順番で対象を見たのか、1か所を見た時間の長さを知ることができる。視線の時系列的な停留点の変化に加えて、自記式質問紙などを用いると情報取得から作業に至る一連の認知処理の分析が可能になる。現在、視線計測機器を使用した研究として、運転による危険予測、文書読解、技術の継承などの熟練者の視線を分析しているものがある。看護分野においては、静脈注射時の熟練看護師の視線や病室の静止画像を用いることで、熟練看護師の病室を観察するときの視線を計測し熟練看護師の認知過程を可視化しようとしている。しかし、熟練看護師とがん患者とのコミュニケーションに着目した視線を計測した研究は現在なされていない。近年、入院在院日数が、短縮化され効率的な情報収集を行わなければ、患者の思いに気づくことなく治療が進み、告知の受け入れ状況によっては、患者の抑うつ状態を生み出す結果となり、今後の治療に影響を及ぼす。今後、看護学生のがん患者とのコミュニケーション教育へつなげるため、本研究では、熟練看護師ががん患者とコミュニケーションをとる際の視線を計測し認知過程の可視化を試みることにする。

### 2. 研究の目的

研究の目的は以下の2点である。

研究1:文献検討により、看護学生ががん患者との会話の中で困難と感じる場面を明らかにする。

研究2:模擬患者ががん告知後の思いを語る際、熟練看護がどこを見ながら患者の思いを傾聴しているかを視線計測より可視化する。

### 3. 研究の方法

#### (1)研究1の方法

文献検索は医中誌 Web を使用して行った。キーワードは「看護」「学生」「患者」「コミュニケーション」とし、原著論文に限定し、1177件の論文が抽出された。1177件のうち、看護学生ががん患者との会話の中で困難を感じる場面について述べられた文献12件を対象とした。

#### (2)研究2の方法

##### 対象

選択基準:臨床経験5年以上であり、がん患者と関わる領域での臨床経験がある者とした。

除外基準:ハードコンタクトを使用している者、モニターに映し出された患者の顔が見えない者何らかの理由で(アイメイク等)視線を計測することができない者とした。

##### 方法

a.場所:A大学

b.調査方法

研究対象者に研究の目的や研究参加への同意は自由に意思決定できることなどを説明文書を用いて説明し、同意を得た。次に対象者に、視線計測機器 EMR-ACTUS のモニターの正面に設置した椅子に座ってもらい、頭部位置表示パネルで測定位置と被験者の頭部の位置が一致し、自動でキャリブレーションが行えていることを確認した。その後、EMR-ACTUS を使用し、EMR-ACTUS のモニターにあらかじめ録画した模擬患者のがん告知後の思いを話す1分程度の動画を流した。動画は、看護師が患者の病室を訪室した際、患者とのコミュニケーションにより患者の思いを聴く場面とした。分析範囲として、両目、鼻、口元、胸元、首、カレンダー、吸引器、酸素流量計、その他、の9領域を設定した。動画には、トリガーとして患者の発言に「がん」「死」を入れ、2秒以上の沈黙の場面を入れた。

動画は模擬患者と病室の背景のみが映っており、音声は模擬患者の声と模擬患者と会話をする看護師の声のみであった。EMR-dStream2 アイマーク 解析ソフトウェア ver.2.41a を用いて分析を行った。視線計測終了後、がん看護関連領域における臨床経験 視力、視力矯正用具の使用状況、コミュニケーションの中で沈黙の時に感じることや「看護師のコミュニケーションスキル測定尺度」を用いてアンケート調査を実施した。

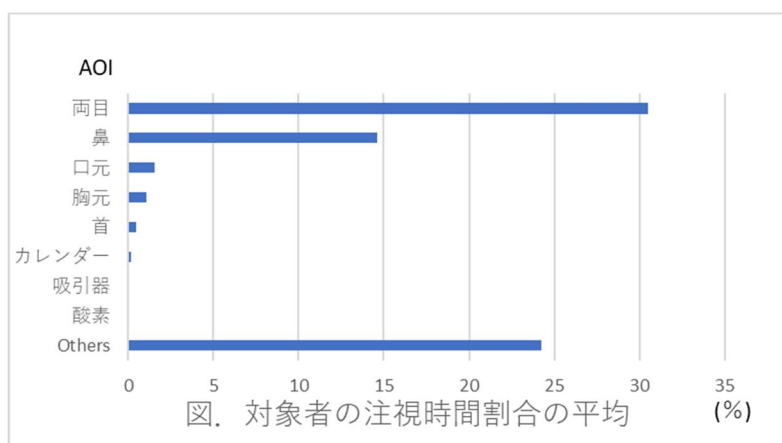
### 4. 研究成果

(1)研究1では、看護学生が患者とのコミュニケーションで困難を感じる場面として、患者の発言の中に「がん」や「死」という言葉があること、沈黙があると困難を感じていることが明らかとなった。よって、研究で使用する動画では、患者が発言するセリフには「がん」「死」の言葉を入れ、沈黙を入れえることにした。

(2) 研究2では、熟練看護師の視線を可視化することを目的としており、研究実施施設の倫理審査委員会に倫理申請を行い、研究の実施について承認を得てデータの収集を行った。現在、8名の対象者のデータについて詳細に分析している。

対象者8名の注視時間の割合を表に示す。対象者の各AOIの注視時間の割合の平均は、両目が30.5%と、最も高く、次いで、鼻、口元であり、注視時間のうち45%が顔を見ていたことが示された。また「沈黙」の時に感じることについては、患者の発言を待つ時間ととらえている看護師が多かった。看護師のコミュニケーションスキル尺度の平均点は73.9点であった。先行研究において、同様の尺度を使用した研究では、学生の平均点は54.9点であり、臨床経験5年以上の熟練看護師のコミュニケーションスキルが高かった。

今後、「がん」や「死」と発言する場面や沈黙の場面で、視線がどのように動くなど詳細に分析したいと考える。



#### 参考文献

- ・大野健彦. (2002). 視線から何がわかるか. 認知科学, 9(4), 565-579.
- ・松本玄智江, 吉川洋子, & 田原和美. (2010). 家庭訪問実習を核とした一連の授業におけるコミュニケーションスキルの習得状況--コミュニケーションスキル測定尺度の分析を通して. 日本看護学会論文集 看護教育, 41, 93-96.」

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計0件)

[学会発表](計0件)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----